

数研研究リポート 8

# 国民性の研究 岐阜調査 (1963)

1963 年

統計数理研究所

## 国民性調査委員会

調査委員会委員長：末綱 恕一

委員：林 知己夫，青山博次郎，石田正次，西平重喜

多賀保志，植松俊夫，鈴木達三\*

\* 幹事

なお、この調査の運営には第2研究部第1研究室が当っている

---

当研究所では、現在 *Annals of the Institute of Statistical Mathematics* と統計数理研究所集報とを発行している。

このレポートは研究調査のデータの発表を目的とし、必要に応じて発行する。

---

数研研究レポート		既 刊
No. 1	ニュースの伝わり方	1954 年 江刺調査中間報告
No. 2	マス・コンの効果	1956 年 4 月まで (絶版)
No. 3	” (改訂版)	1957 年 12 月(EF IX)まで(絶版)
No. 4	投票した人・棄権した人	1958 年
No. 5	国民性の研究 第Ⅱ次調査 その1	1959 年 (絶版)
No. 6	国民性の研究 第Ⅱ次調査 一増補改訂版一	1959 年
No. 7	国民性の研究 岐阜吟味調査	1960年

---

## 統計数理研究所

東京都港区麻布富士見町1

電話：東京 (473) 2176

© 1963 年

# も く じ

I	ま え が き	-----	1
	§ 1 岐阜 1963 調査の目的	-----	1
	§ 2 調査実施のあらまし	-----	2
	§ 3 感謝のことばと仕事の分担	-----	3
	§ 4 文献と資料	-----	3
II	結 果 の 概 要	-----	5
III	質 問 項 目 の 一 覧 表	-----	10
IV	集 計 表	-----	12
	集計表の見方      回収率      不能率	-----	12
	§ 1 基本項目	-----	14
	§ 2 個人的態度	-----	16
	§ 3 宗 教	-----	18
	§ 4 子供・家	-----	23
	§ 5 身近かな社会	-----	27
	§ 6 男女差別	-----	37
	§ 7 一般の社会問題	-----	39
	§ 8 政治的態度	-----	42
	§ 9 日本人・人種	-----	44

# I ま え が き

## §1. 岐阜1963調査の目的

われわれは1953年以来「国民性の調査」をおこなっている。この調査については後にのべる文献（たとえば文献10「日本人の国民性」）にくわしくのべてある。しかし、このような研究は一時期のみでなく、時間的变化を追及したり、観念をかえた調査をおこなったりして、資料の拡充をはかる必要があるので、われわれは5年目ごとに全国調査を実施して研究をすすめていく方針をとっている。

本年は丁度、調査をはじめてから10年目に当るので第3回目の全国調査を実施することになった。

この岐阜1963調査の目的は第3次全国調査をよりよくするために

- ① これまでに実施したいくつかの質問項目についての検討
- ② 新しい質問項目および修正質問の検討
- ③ 意見の時間的变化の分析
- ④ 調査法上の二・三の問題の検討

などをおこなうことにある。従って、研究所の貶賃を中心とする、優秀な調査員が調査に当ることになった。

調査地を岐阜市にしたのは4年前の1959年に、第2次全国調査の吟味調査を岐阜市でおこない、データの比較分析が容易におこなえることと、全国調査との関係も吟味調査で検討してあるからである。すなわち、岐阜市は産業構成、その他の特性などが全国の中都市（人口5万以上の都市で6大都市をのぞく）の平均とよく似ており、地域的にみてもほぼ全国の中央にあり、第2次全国調査では中部地方の意見がほぼ全国の意見の傾向をあらわしているとみられたので吟味調査の調査地を岐阜市に選定したのである。（岐阜吟味調査（1959）参照）

また、岐阜県統計協会が1962年秋に、われわれの調査と同様の質問で『岐阜県民性の調査』を実施し、貴重な資料（文献11）を提供

されたのでより広範囲の分析が可能になった。

とくに調査法上の問題を検討するため質問項目を2, 3追加することにした。

## §2. 調査実施のあらまし

調査員 は、研究所の取組14人とわれわれの研究所の調査にたびたび参加している学生など8人の協力をえておこなわれた。

サンプル 岐阜市全域のうち、1960年以降合併になった地域をのぞいた地域の選挙人名簿から、等間隔サンプリングにより500人のサンプルを抽出した。これは全有権者（約18万人）のおよそ $1/360$ にあたる。

なお、調査不能は20%であるが、このうち6割は移転、長期不在、病気などやむを得ないものであった。

時期 1963年6月19日～24日

### 調査票と質問

この調査は第3次全国調査の準備のための調査をかねている。質問は新しい質問、10項目、修正して検討する質問5項目、意見の変化をみる項目5項目、その他6項目、基本項目6項目となっているが、質問を項目別に分類するとつぎのようになる（分類については文献10を参照のこと）

§1 基本項目 5項目

§2 個人的態度 2項目

§3 宗教 7項目

§4 子供、家 3項目

§5 身近かな社会 9項目

§6 男女差別 2項目

§7 一般の社会問題 3項目

§8 政治的態度 2項目

§9 日本人・人種 2項目

### §3. 感謝のことばと仕事の分担

今回の岐阜調査を実施するにあたり各方面のご援助を得た。ここにお名前をあげて感謝申し上げるしだいである。(敬称略)

岐阜県庁：企画管理部長小川功 統計課長小島清一

統計課係長藤井好一 統計課係長山田清三

主事竹内安之 同鈴木誠一 および統計課の皆様

岐阜市役所：送管事務局書記長平野従一 および送管事務局の皆様

阜山荘：支配人杉山英治 および従業員の皆様

調査の実施：丸山愛子，郷古輝子，雨宮多賀子，佐藤敬子，

須藤慧子，坂本静子，渡辺知子，

内山三郎，遠藤一夫，大久保八八，今野 浩

(以上敬研)，井沢 修，宮崎民雄(以上法大

学生)，奥野義昭，川口嘉捷，伊藤満男，長谷

川隆治(以上明大学生)，植田厚生(早大学生)

越谷和子(旧研究員)

このほか委員のうち植松俊夫，鈴木達三が参加した。

なお，調査の運営，集計，リポートの作製には，第2研究部第1研究室(鈴木，須藤，渡辺)が当たっている。

林知己夫，青山博次郎，石田正次，西平重喜，多賀保志，

植松俊夫，鈴木達三(幹事)

### §4. 文献と資料

(1) いままでのわれわれの国民性の研究について，印刷されたものは，つぎのとおりである。

第1次調査について

1. 林知己夫：「国民性の研究」『教育統計』第30号 1954年。

文部省調査局

2. 林 他：「わが国国民性の統計数理的研究」『日本統計学会年報』/1953年
  3. Hayashi et al. : A study of Japanese National Character "Ann. Inst. statist. Math." Vol. 11 sup.  
第1, 2次調査について
  4. 「国民性の研究」, 『数研研究リポート』NO. 5, 6, 7 /1959.  
1960年.
  5. 西平重喜：「日本人の考え方」『岐阜タイムス/1959年4月  
21日, 北海道新聞, 河北新聞, 富山新聞, 山陽新聞』
  6. 西平重喜：「日本人のものの考え方」『経済評論』/1959  
年8月臨時増刊号
  7. 林知己夫：「日本人の国民性」『自由』/1960年1月号
  8. 西平重喜, 鈴木達三：「わが国民性の統計的研究」第2次調査, 『日本統計学会年報』/1959年
  9. Research Committee; A study of Japanese National Character, Second Survey. "Ann. Inst. Statist. Math., Vol. 12 sup., 1960.
  10. 統計数理研究所国民性調査委員会：『日本人の国民性』至誠堂 1961年8月
- (2) 資料
11. 岐阜県統計協会『岐阜県の県民性』/1963年3月

◎今秋おこなわれる第3次全国調査の結果は 統計数理研究所彙報11巻2号/1964年3月 に発表される予定である

## Ⅱ 結果の概要

ここではこの調査の主なねらいであった、意見の変化の模様、修正質問、新質問の結果などについておおまかにみておくことにする。  
調査実施状況：調査不能は全体の20%弱であるが、これは他の同様な面接調査の結果とくらべて普通の成績である。また、調査不能率を年齢別にみると20～24才がやや高くなっているが全般的にはあまり差はない。

調査不能の内訳は移転、尋ね当らずがおよそ各、不在が各になっている。

§1 基本項目 性別、年齢別とも岐阜/959調査と変りない、学歴はやや小学がへり中学が多めになっている。職業は質問の形式をかえて調査してみたが構成比率はほとんど変らない。

§2 個人的態度 「反対をおし切って実行」するものが/959調査にくらべややふえている。「一番大切なもの」は第2次全国調査と同様の比率であるが、岐阜県がおこなった県民性の結果とは大きく違っている（資料//参照）。これは調査法のちがい（われわれの調査は面接調査、岐阜県の調査は自記式）と、答のとり方のちがい（われわれの調査は自由回答法で、県の調査は項目をあげておき選ばせる方法）によるものである。

§3 宗教 信者の比率は岐阜/959調査と変りないし年齢的な傾向も同じである。信者に「どんなことをしているか」を質問して信仰の強さをみると、いわゆる新興宗教（仏教）を信じているものに「毎日おつとめ、活動をする」という答がやや多めにみられた。また信じていないものに「宗教は必要か」とたずねると65%は必要と答えている。

「道徳教育がゆきわたれば宗教はいらなくなる」というものはご



くわずか（18％）であり、宗教を信じていないものにやゝ多いが、全体としてみれば、道徳と宗教との差異ははっきり認識されているといえよう。

科学の進歩はここ数年来目ざましいが、「科学の進歩だけではダメ」という答はこの前（岐阜1959調査）同様圧倒的に多い（71％）。

§4. 子供・家 「先生が悪いことをした」という話を子供にきかれて肯定するものは岐阜1959調査にくらべてやゝふえているが、これは先生のしたことを具体的なものにしてもあまり変らない。「子供に金は一番大切と教えるのがよい」という意見に賛成するものは、質問と言葉づかいが少しことなるが第1次全国調査の結果よりやゝへっている。全体的な変化の様子は今秋の全国調査の結果をまたねばならない。

「他人の子供でも養子につがせる」という答は岐阜1959調査より少くなっているがまだ半数以上（53％）は「つがせる」と考えている。「つがせる」理由はほとんど変化していない。

§5 身近かな社会 入社試験で親戚の子が2番のときは「成績通りに1番を採用する」という答が70％になるが、悪人の子が2番のときは「成績通りに採用」という答は44％にへり「悪人の子をいれよ」という答が40％をしめる。すなわち態度不変のものは6割で悪人の子になると態度をかえるものが28％になる。これは年令的にみて、年をとっている人の方がやゝえこひいきする傾向があるようである。

戦前、戦後にそれぞれ尊重された道徳のうち「親孝行」「恩返し」「権利の尊重」「自由の尊重」の4つをあげ大切なものはどれかというところ「親孝行」52％、「恩返し」41％、「権利尊重」58％、「自由尊重」46％でそれ程差はないし、組合せでも、「親孝行」「恩返し」をあげた戦前型のもの19％、「権利の尊重」「自由の尊重」をあげた戦後型のもの25％で戦前のものから

1つ、戦後から1つの組合せが多数をしめるのは興味のあることである。また年令的にみると「親孝行」は変りなく、「恩返し」は年寄りほど大切だと答え「権利の尊重」は30才前後が最も多くあげ、「自由の尊重」は20才台がとび離れて多くあげている(20才台60%前後, 30才以上40%前後)。

これらの道徳を戦前とくらべてみると、戦前よりしなくなったという答は「親孝行」65%、「恩返し」61%であり、するようになったという答は「権利の尊重」75%、「自由の尊重」76%で、ほぼ常識的な結果である。

「めんどうをみしてくれる課長」はいつの調査でも人気があったが質問をかえて、「仕事のうえの指導はあまりじょうずではないがどうか」としてみるとやはり人気はなくなり、人情だけではダメであろうと考えられる。

「秀吉はいつの世でも若い人の手本である」というものは第1次全国調査と同様80%に達する。

また「今の世で親や先輩の指導や意見は若いものに必要だ」と答えるものが86%に達する、これを年令別にみても変化はなくどの年令層でもこの答が圧倒的に多いのは時節柄興味のあることである。

§6 男女差別 中学の男女共学、高等学校の男女共学とも「賛成」が岐阜1959調査よりふえる傾向にある。しかし最近では、女性の活躍がめざましいにもかかわらず「男女の能力差がある」というものは第2次全国調査とほぼ同じ(68%)である。

§7 一般の社会問題 以前のように国家や家を中心とする生活の方がよいか、現在のような個人中心の生活がよいかは岐阜1959調査のときの家・国家中心と個人中心の結果とほとんど変わらない。公益と個人の権利の問題で、「公益が無視されている」という答はやゝ第2次全国調査にくらべふえている。

「法律はみんながぐあいよく生活できるようにつくるべきである」という答は62%で「世の中に正義がおこなわれるようにつくるべきだ」という答(29%)よりずっと多い。

§8 政治的態度 選挙関心は岐阜1959調査と同じであり、支持政党もやゝ社会党支持がふえているがほとんど変りない。

§9 日本人・人種 日本人の長所・短所を自由回答法でとってみると長所では勤勉(51人)、辛抱づよい(34人)、器用(22人)、模倣がうまい(22人)、親切(19人)、などが主なものである。短所の方では短気(49人)、利己主義(32人)、模倣(21人)、熱しやすくさめやすい(20人)、飽きっぽい(15人)などが主なものであり、岐阜1959調査や第2次全国調査であげた日本人の性値をあらわす言葉のリストにあげられたものがかなりみられたので、今秋の全国調査ではまたリストをみせてえらばせる方式にすることにした。立派な人物では岐阜1959調査にくらべて人物を9人ふやし、しかも調査方法も人物リストをみせて立派な人物をえらばせる方式をやめ、人物カード(名刺の大きさのカードに人名が印刷されている)を用いて「非常に立派と思う」か、「まあ立派と思う」か、「あまり立派とは思えない」か、「立派な人物とはとても思えない」かに分類させることにした。分類をしてくれなかった人(10%)をのぞいて集計結果をみると「非常に立派と思う」という答の比率の順位は岐阜1959調査であげられた比率の順位とほとんど変りなく、(順位相関0.9以上)やはり、聖徳太子(77%)、野口英世(77%)、二宮尊徳(73%)、明治天皇(73%)、(カッコ内の数字は非常に立派な人物と思うに分類された%)が上位を占め、以下湯川秀樹(69%)、乃木希典(58%)、西郷隆盛(57%)、伊藤博文(55%)、福沢諭吉(54%)、楠木正成(52%)が過半数からあげられている。足利尊氏(5%)、平賀源内(8%)はほとんど人気がない。

「この人物のことはよく知らない」という答は 二宮尊徳(5%)、明治天皇、西郷隆盛(6%)、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康(7%) などはごくわずかであるが、平賀源内(68%)、杉田玄白(66%)、伊能忠敬(64%)、原 敬(55%)、中江藤樹(52%)、などは過半数が「よく知らない」と答えている。

年令別にみると、藤原鎌足、菅原道真、楠木正成、中江藤樹、新井白石、勝海舟、吉田松陰、東郷平八郎、乃木希典、明治天皇、は年令の高くなるほど立派だという答がふえており、若いものほど人気のあるのは福沢諭吉、野口英世などである。

以上があらましである。くわしい分析は今秋おこなわれる第3次全国調査の結果とともに発表される予定である。

### Ⅲ 質問項目の一覧表

§	項 目		** 全国調査	岐 一九五九	阜 一九六三	他調査との関係 この調査でのねらい	表 番号	ペ ージ
	#*	見 出 し						
§1 基 本 項 目	1・1	性	0	0	*** 1		1	14
	1・2	年 令	0	0	1		1	14
	1・3	学 正	0	0	26		2	14
	1・4	職 業	0	0	職業	復問の仕方を改良した	3	14
	—	関心のある新聞記事	—	—	2	(新) 社会・政治問題への関心度 をみる(中間階級調査参照)	4	15
§2 個 人 的 態 度	2・2b	反対をおしきって実行 (民主的でないといわれたと)	△	0	19	1957調査の結果を再検討	5	16
	2・7	一番大切なもの	0	—	21	全国および「岐阜県民性調査」 (自記式)との比較	6	17
§3 宗 教	3・1	宗教を信じるか	0	0	12-a	信者を信仰の程度でわけ	7	18
	3・1b	宗 派 名	0	0	12-b		8	19
	—	どんなことをしているか	—	△	12-c	(新) C・f #3・1 C 努力しているか	8	19
	(3・2b)	宗教は必要か	△	△	12-b	(新) C・f #3・2「宗教心は大切か」	9	20
	—	宗教を何故信じないか	—	—	12-e	(新) 現在の宗教に不満のものが どのようなものを求めているか	9	20
	(3・2d)	道徳教育と宗教	—	—	13	(新) 道徳(教育)と宗教との差異を 認識しているかどうか	10	21
	3・6b	科学だけでよい	—	0	20	科学の大きな進歩による変化	11	22
§4 子 供 ・ 家	4・4	先生が悪いことをした	0	0	6-a	#4・4b いろいろな場合の再検討	12	23
	4・4b	// PTAの場合	—	0	6-b		13	24
	4・4・5	子供に「金が一番大切」と教える	0	—	5	復問文小変更して検討	14	25
	4・10	他人の子供を養子にするか	0	0	8	変化をみる 理由「県民性」と比較	15	26
§5 身 近 か な 社 会	(5-c)	入 社 試 験	—	—	14	(新) C・f #5・1, #5・1b 悪人の子で態度変るか	16	27
	(5-d)	大切な道徳	—	—	10	(新) 戦前尊重された道徳と、戦後 尊重された道徳との比較	17	29
	(5-e)	「親孝行」戦前との比較	—	—	11-a	(新) }	18	30
	(5-f)	「鬼返し」戦前との比較	—	—	11-b		19	31

§	項 目		全 国 調 査	岐 阜 一九五九	一九六三	他調査との関係 準備調査でのねらい	表 番 号	ペ ー ジ
	#	見 出 し						
§ 8 身近な社会	(5-1 g)	「個人の権利尊重」戦前との比較	—	—	11-c	(新) C・F #5・6, #5・6b 東京電力調査参照 変化をみる (新) 世代間の差異を検討	20	32
	(5-1 h)	「自由の尊さ」戦前との比較	—	—	11-d		21	33
	45, 6 c	二人の課長	△	△	15		22	34
	5・9	秀吉は若者の手本	○	—	7		23	35
	(5-15)	若い者に親や先輩の意見は必要か	—	—	9		24	36
§ 6 男差 女別	6・1 (6-1b)	男 女 共 学	○	○	3	変化をみる	25	37
	6・5	男 女 の 能 力 差	○	—	4	変化をみる	26	38
§ 7 一般の社会問題	△7・3 c	国家・家中心と個人中心	△	△	18	(新) #7・3 家族・国家 ↔ #7・3b 家・国家 国家・家中心 復向の言葉使い検討	27	39
	7・5	公益と個人の権利	○	△	16	全国調査の復向を1959調査の 復向に変更するため	28	40
	(7-13 c)	法律の精神	△	△	17	(新) 法律の作り方の精神	29	41
§ 8 政治的度	8・6	選挙への関心	○	○	22		30	42
	8・7	支持政党	○	○	23		31	43
	△(7-1b)	日本人の長所・短所	△	△	24	自由回答法により全国、岐阜 (新) 1959でとり上げたリストの 項目を検討する	32 (33)	44 45
	△7・4	立派な人物	—	△	23	1959調査のアスト方式をやめ、 人名カードにより分類させる 調 査方式の検討	34	46

注 \*) #の欄は文献10の分類番号である。新復向は類似のところに( )していれてある。  
また △印は小修正したところを示す。

\*\*) 全国調査、岐阜1959の欄の ○印は同一復向をその時行ったことを示す。また △  
印は類似復向を行ったことを示す。

xxx) 今回の岐阜1963調査の復向順序(向番号)を示す。

## 集 計 表 （単純集計および年令別集計）

### 集 計 表 の 見 方

- 1 集計表は、質問項目の一覧表の順にならべてある。この順は文献4、9、10の報告書でとり上げた順とおおむね一致する。またこの調査で新しくとり上げた質問も関連する質問のところにならべてある。
- 2 回収率、不能率の表をのぞいて、他の集計表は特にのべないかぎり調査できたサンプルを100%にしたパーセントをしるしてある。

- 3 集計表にあげられた各関連調査は、つぎの通りである

略 称	説 明
全国 I	1953年におこなった第1次全国調査の結果を示す
全国 II	1958年におこなった第2次全国調査の結果を示す
全国 II (市部)	上記の調査結果のうち、全国の市部の結果を岐阜市の結果と比較するためにとり上げた
岐阜/1959	1959年に岐阜市でおこなった第2次全国調査の吟味調査の結果を示す
岐阜/1963	今回の調査結果を示す <u>大きな数字</u> で記入してある
岐阜市(県民性)	岐阜県が1962年におこなった「県民性の調査」の結果を示す(ただし、岐阜市内の分)

- 4 表の見出し(項目)は文献10と同じである、また質問項目の一

覽表にある井番号は質問の整理番号を示しており、やはり文献10と同じである。(新しい質問項目は仮番号をつけて(井・・)としてある。また小修正した質問項目には井番号の前に△印をつけてある。)

5 表の数字のうち0, 1, 2, 3……9 は実数を示し、他は%を示す。

6 年令別の集計表は〈岐阜1963〉の結果である。

### 回 収 率 ・ 不 能 率

	回 収	調 査	不 能	計	回 収 率	不 能 率	計
岐阜1959	817	183	1000		82	18	100
岐阜1963	402	98	500		80	20	100

### 調 査 不 能 率 (岐阜1963)

	計	男	女	20 ~24	25~ 29	30~ 34	35~ 39	40~ 49	50~ 59	60~
サンプル数(100%=)	500	237	263	66	72	90	64	77	80	61
調査不能率(%)	20	19	20	33	24	13	22	14	16	18

### 調査不能の理由 (岐阜1963)

理 由	死亡	移転	尋ね 当らず	病気	長期不在	一時不在	拒否	その他
不能者中の%*	-	26	6	18	16	20	14	-

\* 100% = 98人



# §1 基本項目

第1表 <#1.1> 性, <#1.2> 年 令

	男	女	20才台	30才台	40才台	50才台	60才以上	計
全国Ⅱ	46	54	29	24	19	14	14	100 (2369)
全国Ⅱ(市部)	46	54	28	25	22	12	13	100 (685)
岐阜 1959	48	52	30	25	20	13	12	100 (817)
岐阜 1963	48	52	25	31	17	15	12	100 (402)

第2表 <#1.3> 学 歴

	小学	中学	高校	大学	不明	計
全国Ⅱ	31	37	24	7	1	100 (2369)
全国Ⅱ(市部)	25	36	31	7	1	100 (685)
岐阜 1959	27	35	29	8	1	100 (817)
岐阜 1963	17	44	31	8	0	100 (402)

第3表 <#1.4> 職 業

	専門・管理 職	事務員 店員	小業主	工 賃	単純労働	農耕	主婦 無業	その他	計
全国Ⅱ	6	11	8	7	4	29	22	13	100 (2369)
全国Ⅱ(市部)	7	13	9	12	7	13	24	15	100 (685)
岐阜 1959	7	15	14	13	2	9	29	11	100 (817)
岐阜 1963	5	16	12	16	4	8	32	6	100 (402)

#### 第4表 関心のある新聞記事

〔リスト〕 あなたは、つぎの3つの新聞記事のうちでは、どれにいちばん関心がありますか？ つぎはどれですか？

政治面の記事，社会面の記事，運動(スポーツ)面の記事

	向		政治面の 記事	社会面の 記事	運動(スポーツ) 面の記事	その他	D.K.	計
岐阜/963	2	第1位	18	52	18	2	10	100(402)
		第2位	33	24	22	3	18	100(402)

第1位	政治	政治	社会	社会	運動	運動	他	計
第2位	社会	運動	政治	運動	政治	社会		
	14	3	28	17	5	11	22	100(402)

## §2 個人的態度

第5表 <#2.2b> 反対をおしきって実行(民主的でないといわれたとき

問 「リスト」 自分が正しいと思ったことを、他の人に、十分説明しても、「それは民主的な考え方ではない」といって、聞きいれられない場合、つぎのどちらの態度をとる人が望ましいと思いますか？

(イ) 他の人が民主的でないといっても、自分が正しいと思えば実行する人

(ロ) 他の人に民主的でないといわれれば、自分が正しいと思っても、実行をとりやめる人

		問	実行	とりやめ	その他	D. K.	計
岐阜 1959		219	63	26	5	6	100 (415)
岐阜 1963		19	72	21	4	3	100 (402)
年 令 別	20 ~ 24才		77	16	5	2	100 (44)
	25 ~ 29才		69	25	2	4	100 (55)
	30 ~ 34才		80	19	1	-	100 (78)
	35 ~ 39才		82	12	2	4	100 (50)
	40 ~ 49才		64	21	12	3	100 (66)
	50 ~ 59才		66	31	-	3	100 (57)
	60才以上		68	22	2	8	100 (50)

第6表 <#2.7> 一番大切なもの

問 あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。一つだけあげてください? (なんでもかまいません)

全国Ⅰ, あなたの家で

	問	自分生命 健康	子 供 (孫も含)	家族(親)の 家庭生活	幸福愛情 生活	金 財産	他	D.K.	計
全国Ⅰ	47	12	12	19	11	16	25	5	100 (2254)
全国Ⅱ	29 129	21	11	11	21	12	19	5	100 (2369)
山 岐 阜 1963	21	22	11	13	21	9	13	11	100 ( 402)
岐阜市(県民性)		69	8	10	12	0	1	-	100 ( 577)

### §3 宗 教

第7表 <#3.1> 宗教を信じるか

問 2) 宗教についておききしたいのですが。

たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか？

		問	信じる	信じない	計	
全 国 Ⅱ		16. a	35	65	100	( 920 )
全 国 Ⅱ (市部)		"	37	63	100	( 262 )
岐 阜 1959		204a	44	56	100	( 817 )
岐 阜 1963		304a	45	55	100	( 402 )
年 令 別	20 ~ 24才		22	78	100	( 44 )
	25 ~ 29才		21	79	100	( 55 )
	30 ~ 34才		32	68	100	( 78 )
	35 ~ 39才		40	60	100	( 50 )
	40 ~ 49才		58	42	100	( 66 )
	50 ~ 59才		61	39	100	( 59 )
	60才以上		78	22	100	( 50 )

第8表 <#3.1b> 宗 派 名 (していること)

b) 「問えの答1 信者のみ」 それはなんという宗教(宗派)ですか?

	問	既成宗教でない	神道	仏教	キリスト教	その他	計
全国Ⅱ	16b	13	9	68	3	7	100(321)
岐阜 1959	204b 304b	7	11	72	1	9	100(358)
岐阜 1963	12b	4	4	79	2	11	100(179)

c) 「宗教を信じている人に」  
では、どんなことをしていますか?

していること	神道	仏教(既成)	仏教(新興)	キリスト教	その他宗教
毎日おつとめ, 朝夕おまいり	2	33	18	1	・
説教をきく, 宗教雑誌読む	1	4	1	-	5
宗旨教える	-	1	-	-	・
集会, 活動する	-	-	6	-	・
命日読経(行事)	1	10			
お寺まいり(教会にいく)	1	15	1	1	3
仏を拝む(お祈り)	3	15	2	-	
その他	2	4	3		1
別になし	-	39	3	1	1
計*	8	115	28	3	10

\* サンプル数

〔表中の数字は実数  
2つあげたものがある〕

# 第9表 <#3.2b> 宗教は必要か

d) 「宗教を信じていない人に」

人間にとっては、いつの世になっても、宗教は必要でしょうか、それとも、必要ではないでしょうか？

		問	必要	必要ではない	その他	D.K.	計
岐阜 1963		12-b	65	23	6	6	100 (223)
年 令 別	20 ~ 24才		35	44	6	15	100 (34)
	25 ~ 29才		68	18	11	3	100 (44)
	30 ~ 34才		60	26	4	10	100 (53)
	35 ~ 39才		73	17	7	3	100 (30)
	40 ~ 49才		75	18	7	-	100 (28)
	50 ~ 59才		83	9	4	4	100 (23)
	60才以上		73	18	-	9	100 (11)

宗教を何故信じないか

e) 「宗教は信じないが「必要」だという人に」

では、なぜ宗教を信じないのですか？

宗教を信じない理由	サンプル数	宗教を信じない理由	サンプル数
必要を感じない	19	無神論	4
精神的迷いなし	7	信ずる気になれない	2
関心がない	5	宗教で解決できない	2
気持に余裕ない	4		
機会がない	5	先祖は信じる	13
暇がない	6	心のよりどころ	7
年令が達しない	6	世の中の移り方激しいから	1
		精神修養のため	1
自分に合う宗教がない	8		
宗教に縛られたくない	7	D. K.	45
宗教の選択に困る	1		
信心が足りない	2	サンプル数	144
関心もつが浅い	2		

(2つあげたものがある)

第10表 <#3.2b> 道徳教育と宗教

問 それでは、新しい意味での道徳教育がゆきわたれば、宗教はいらなくなるでしょうか？

		問	賛 (宗教いらなくなる)	成 反	対 (そんなことはない)	その他	D.K.	計
岐阜 1963		13	18	72	0	10	100	(402)
宗教を信じているもの			11	82	1	6	100	(179)
宗教を信じていないもの			24	63	1	12	100	(223)
年 令 別	20 ~ 24才		25	61	0	14	100	(44)
	25 ~ 29才		26	56	0	18	100	(55)
	30 ~ 34才		26	67	1	6	100	(78)
	35 ~ 39才		12	80	2	6	100	(50)
	40 ~ 49才		13	80	0	7	100	(66)
	50 ~ 59才		16	71	0	13	100	(59)
	60才以上		10	84	0	6	100	(50)



第11表 <#3.6b> 科学だけでよいか

問 人類の幸福のためには、科学が十分進歩すればよいものでしょうか、それともそれだけではだめでしょうか？

〔科学だけではダメのとき〕 それでは、人類の幸福のためには、どんなことが必要でしょうか？

	問	科学でよい	科学だけではダメ	その他	D.K.	計
岐阜 1959	220 320	20	67*	1	12	100 (817)
岐阜 1963	20	20	71*	0	9	100 (402)

\*必要なものをあげた人は 1959 では70%， 1963 では約60%であるが、これを精神面と社会，政治面にわけるといずれも前者が約7割，後者が約3割になっている。

岐阜 1963 の		科学でよい	科学だけではダメ	その他	D.K.	計
年	20 ～ 24才	18	79		3	100 (44)
	25 ～ 29才	15	80		5	100 (55)
	30 ～ 34才	15	81		4	100 (78)
令	35 ～ 39才	28	62		10	100 (50)
	40 ～ 49才	24	73		3	100 (66)
	50 ～ 59才	22	63		15	100 (59)
別	60才以上	18	56		26	100 (50)

## §4 子供・家

第12表 <#4.4> 先生が悪いことをした

問 2) 「先生が何か悪いことをした」というような話を、子供が聞いてきて、親にたずねました。先生がそういうことをしたのは事実ですし、それは親からみても悪いことです。こんなとき、子供には「そんなことはない」といった方がいいと思いますか、それとも「それはほんとうだ」といった方がいいと思いますか？

2 (一般)		問	そんなことはないという	ほんとうだという	その他	D.K.	計
全国 I		9	38	42	13	7	100 (2254)
全国 II		6	38	41	10	11	100 (920)
全国 II (市部)		"	40	42	11	7	100 (262)
岐阜 1959		313	31	49	13	7	100 (402)
岐阜 1963		6a	28	57	8	7	100 (402)
年    令  別	20 ~ 24才		9	75	7	9	100 (44)
	25 ~ 29才		22	65	7	6	100 (55)
	30 ~ 34才		22	63	9	6	100 (78)
	35 ~ 39才		36	52	8	4	100 (50)
	40 ~ 49才		39	47	11	3	100 (66)
	50 ~ 59才		29	49	8	14	100 (59)
	60才以上		34	54	6	6	100 (50)

第13表 <#4.4 b> 先生が悪いことをした (P.T.A)

では、その子供が聞いて来たことが、

「先生がP.T.Aの会費を使いこんだ」ということだったら、子供には、「そんなことはない」といった方がいいと思いますか、それともそれはほんとうだ」といった方がいいと思いますか? [このことは事実とする]

		問	そんなことはないという	ほんとうだという	その他	D.K.	計
岐阜 1959		213	47	34	9	10	100 (415)
岐阜 1963		66	32	49	8	11	100 (402)
年 令 別	20 ~ 24才		32	48	7	13	100 ( 44)
	25 ~ 29才		28	45	9	18	100 ( 55)
	30 ~ 34才		25	55	10	10	100 ( 78)
	35 ~ 39才		32	48	14	6	100 ( 50)
	40 ~ 49才		47	44	5	4	100 ( 66)
	50 ~ 59才		37	41	5	17	100 ( 59)
	60才以上		26	62	4	8	100 ( 50)

第14表 <#4.5> 子供に「金が一番大切」と教える

問 小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのようなことを、どう思いますか：

小さいときから、「お金は人にとって、なにによりもいちばん大切なものだ」と教えるのがよい」という意見がありますがあなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

〔全国:I〕~~~~~の部分はない

		問	賛成	反対	いちがいにいえない	その他	D.K.	計
全国 I		2401	65	24	9	0	2	100 (2254)
岐阜 1963		5	54	33	9	1	3	100 (402)
年 令 別	20～24才		46	46	4	0	4	100 (44)
	25～29才		44	40	13	0	3	100 (55)
	30～34才		51	36	12	1	0	100 (78)
	35～39才		52	34	8	2	4	100 (50)
	40～49才		58	30	9	2	1	100 (66)
	50～59才		58	22	10	0	10	100 (59)
	60才以上		68	26	6	0	0	100 (50)

第15表 <#4.10> 他人の子供を養子にするか

問. 子供がないときは、たとえ血のつながりがない他人の子供でも、養子にもらって家をつがせた方がよいと思いますが、それとも、つがせる必要はないと思いますか？

	問	つがせる	つがせない	場合による	その他	D.K.	計
全国 I	280/	73	16	7	1	3	100 (2254)
全国 II	106	63	21	8	1	7	100 (1449)
全国 II (市部)	1	55	30	9		6	100 (423)
岐阜 1959	209 309	60	26	-	3	11	100 (817)
岐阜 1963	8	53	33	-	5	9	100 (402)
年 令 別	20～24才	43	41	-	2	14	100 (44)
	25～29才	38	42	-	5	15	100 (55)
	30～34才	46	40	-	3	11	100 (78)
	35～39才	42	36	-	12	10	100 (50)
	40～49才	56	30	-	6	8	100 (66)
	50～59才	68	24	-	3	5	100 (59)
	60才以上	76	16	-	4	4	100 (50)

「つがせる人に」それはなぜですか？（どうしてつがせた方がよいのですか？）〔自由回答法〕

	問	家をのこ すため	先祖のイム を守る	老後のため	子孫繁栄	その他	D.K.	計
全国 I	280/3	55		31	4	5	5	100 (1657)
岐阜 1959	209 309	32	16	28	4	18	2	100 (494)
岐阜 1963	8	30	10	27	3	28	2	100 (206)
岐阜県民性*		2**	42	31	25	-	-	100 (216)

\* 県民性の調査では上にあげた4項目のどれかをえらばせる方式をとっている

\*\* 財産をのこすため

## §5 身近かな社会

第16表 <#5.1c> 入社試験

問 a) あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で新しく職員を一人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は2番でした。しかし私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。

あなたはどちらをとれ(採用しろ)といますか?

b) それでは、このばあい、2番になったのがあなたの親戚の子供ではなくて、あなたの恩人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか? (どちらをとれといますか?)

	問	1 1番の人を採用する(成績により)	2 親戚を採用	3 どちらともいえない(課長にまかせる)	4 その他	5 D.K. 計
岐阜 1963	14-a	70	16	5	5	4 100 (402)
岐阜 1963	14-b	44	40	5	5	6 100 (402)
		1 1番の人を採用	2 恩人の子を採用	3 どちらともいえない	4 その他	5 D.K. 計

C. f. #5.1 恩人がキトクの時、 #5.1b 親がキトクの時

	郷里に帰る		会議に出る	
	全国 I	全国 II	全国 I	全国 II
恩人のキトクの時	54	50	41	39
親のキトクの時	49	50	48	41

第16表 入社試験（つづき）

く問のaとbの相関表>

a \ b	1 /番の人を採用	2 悪人の子を採用	3 どちらともいねぬ	x その他	y D.K.	計
1 /番の人を採用	<u>42</u> 168	<u>23</u> 91	<u>2</u> 8	2 8	2 7	<sup>70</sup> 282
2 親戚を採用	2 6	<u>14</u> 57	-	-	1 3	<sup>16</sup> 66
3 どちらともいねぬ	0 1	<u>3</u> 10	<u>2</u> 9	-	-	<sup>5</sup> 20
x その他	0 2	1 3	-	3 12	0 2	<sup>5</sup> 19
y D.K.	-	0 1	0 1	0 1	3 12	<sup>4</sup> 15
計	<sup>44</sup> 177	<sup>80</sup> 162	<sup>5</sup> 18	<sup>5</sup> 21	<sup>6</sup> 24	<sup>100</sup> 402

注1. 表中ゴチは実数，イタリックは402を100%にした比率，

四捨五入のため計の比率と合わないところがある

2. ○印は態度をかえないもの，□印は悪人にひかれて態度をかえたもの

くaとbの年令別集計>

a	b	20~24才	25~29才	30~34才	35~39才	40~49才	50~59才	60才以上
1. /番の人を採用	1. /番の人を採用	39	42	49	56	27	34	48
	2. 悪人の子を採用	14	22	22	24	29	25	20
	3. どちらともいねぬ	0	0	0	4	3	5	2
2. 親戚を採用	2. 悪人の子を採用	14	14	12	6	24	10	18
3. どちらともいねぬ	2. 悪人の子を採用	7	7	1	0	0	2	2
	3. どちらともいねぬ	2	0	1	2	5	3	2
計*		100 (44)	100 (55)	100 (78)	100 (50)	100 (66)	100 (59)	100 (50)

\* その他の組合せのものがあるので、表中の比率の計は100%にならない

第17表 <#5.1d> 大切な道徳

問 「リスト」 つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか？

- 1 親孝行をすること
- 2 恩返しをすること
- 3 個人の権利を尊重すること
- 4 自由を尊重すること

		問	親孝行	恩返し	権利尊重	自由尊重	サンプル数
岐阜 1963		10	52	41	58	46	402
組 合 せ	親孝行		-	19	18	14	表中の数字は402を100%にしたものである。その他に〈その他〉のみ/%、〈D.K〉/%がある。
	恩返し		19	-	15	7	
	権利尊重		18	15	-	25	
	自由尊重		14	7	25	-	
	他, D.K.		1	-	0	-	

* 年 令 別	20～24才	57	27	55	59	100	(44)
	25～29才	44	25	69	62	100	(55)
	30～34才	54	36	72	38	100	(78)
	35～39才	46	42	66	42	100	(50)
	40～49才	53	45	58	44	100	(66)
	50～59才	51	44	49	44	100	(59)
	60才以上	58	64	32	36	100	(50)

\* 注 年令別集計はそれぞれの項目をあげたものの比率をあらわす。たとえば20～24才のサンプル44人のうち親孝行をあげたものは57%である(以下同じ)



第18表 <#5.1 e> 「親孝行」戦前との比較

それでは -----

いまの日本人と、戦前の日本人とをくらべてみて「親孝行」をしなくなったと思いますか？

	問	賛成 (しなくなった)	反対 (かわらない) (戦前よりする)	その他 D.K. 計			
岐阜 1963	11-a	65	28	2	5	100	(402)
「大切な道徳」で 「あげな		77	18	0	5	100	(208)
「あげない		53	39	4	4	100	(194)

## 岐阜 1963 の

年 令 别	20 ~ 24才	25 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 39才	40 ~ 49才	50 ~ 59才	60才以上
	50	41	0	9	100	( 44)	
	63	29	2	6	100	( 55)	
	59	33	3	5	100	( 78)	
	68	28	2	2	100	( 50)	
	68	23	1	8	100	( 66)	
	71	22	3	4	100	( 59)	
	78	18	4	0	100	( 50)	

第19表 <#5-1f> 「恩返し」戦前との比較

では-----

「恩返し」をしなくなったと思いますか？

	問	賛成 (しなくなった)	反対 (かわらない 戦前よりする)	その他	D.K.	計
岐阜 1963	11-b	61	30	3	6	100 (402)
「大切な道徳」で恩返しを あげな		70	23	2	5	100 (163)
「あげない		54	34	4	8	100 (239)

岐阜 1963の

年	20 ~ 24才	36	46	0	18	100 (44)
	25 ~ 29才	49	40	7	4	100 (55)
令	30 ~ 34才	52	32	5	11	100 (78)
	35 ~ 39才	64	30	0	6	100 (50)
別	40 ~ 49才	74	21	0	5	100 (66)
	50 ~ 59才	64	24	7	5	100 (59)
	60才以上	82	18	0	0	100 (50)

第20表 <#5.1g> 「個人の権利尊重」戦前との比較

では-----

個人の権利を尊重するようになったと思いますか？

	問	賛 成	反 対	その他 D.K. 計		
		(尊重するようになった)	(かわらない しなくなった)			
岐阜 1963	11-C	75	14	2	9	100 (402)
[大切な道徳]で権利尊重をあげた		79	13	2	6	100 (234)
" あげない		69	16	1	14	100 (168)
岐阜 1963 の						
年 令 別	20 ~ 24才	78	11	2	9	100 (44)
	25 ~ 29才	80	11	2	7	100 (55)
	30 ~ 34才	76	15	1	8	100 (78)
	35 ~ 39才	72	18	0	10	100 (50)
	40 ~ 49才	80	12	3	5	100 (66)
	50 ~ 59才	66	17	2	15	100 (59)
	60才以上	74	16	0	10	100 (50)

第21表 <#5.1h>「自由の尊さ」戦前との比較

それでは、戦前にくらべて

「自由の尊さ」を知るようになったと思いますか？

		問	賛 (知るようになった)	成 反	対 (かわらない そう思わぬ)	その他	D.K.	計
岐阜	1963	11-d	76	8	5	11	100	(402)
「大切な道徳」で自由尊重を あげた			76	11	4	9	100	(184)
// あげない			77	6	5	12	100	(218)
岐阜 1963 の								
年	20 ~ 24才		82	7	0	11	100	( 44)
	25 ~ 29才		78	9	2	11	100	( 55)
令	30 ~ 34才		82	3	6	9	100	( 78)
	35 ~ 39才		64	12	6	18	100	( 50)
別	40 ~ 49才		80	8	6	6	100	( 66)
	50 ~ 59才		66	17	5	12	100	( 59)
	60才以上		80	6	4	10	100	( 50)

# 第22表 <#5.6c> 二人の課長

問 「リスト」 ある会社につぎのような2人の課長がいます。

あなたは、どちらの課長のしたで働くのがよいと思いますか？

(イ) 仕事のうへの指導はあまりじょうずではないが、  
個人の生活や身の上のめんどうをよく見てくれる  
課長

(ロ) 生活や身の上のことはあまり立ち入らないで、仕  
事のうへの教育や指導に熱心な課長

	問	めんどうをみて くれる課長	指導に熱心 な課長	その他	D. K.	計
岐阜 1963	15	34	59	5	2	100 (402)
東京電力 (1961)	-	41	43	16		100 (2000)
参 全国 I	35	85	12	1	2	100 (2254)
全国 II	117	77	14	2	7	100 (1449)
全国 II (市部)	"	78	16	1	5	100 (423)
考 岐阜 1959	216 316	93	5	1	1	100 (817)

注 参考のものは度同文が異なるので比較はできない

岐阜 1963 の	めんどうをみ てくれる課長	指導に熱心 な課長	その他	D. K.	計
年 20 ~ 24才	41	57	2		100 (44)
25 ~ 29才	29	67	2	2	100 (55)
30 ~ 34才	28	70	2		100 (78)
令 35 ~ 39才	34	62	2	2	100 (50)
40 ~ 49才	26	67	6	1	100 (66)
別 50 ~ 59才	41	42	8	9	100 (59)
60才以上	46	42	10	2	100 (50)

第23表 <#5.9> 秀吉は若者の手本

問 「太閤秀吉のように、名もないものから立身出世をした人の努力は、いつの世になっても、若い人の手本である」という意見に、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか？

		問	賛成	いちがいにいえない	反対	その他	D・K	計
全国 I		6	80	10	4	1	5	100 (2254)
岐阜 1963		7	79	9	7	1	4	100 (402)
年 令 別	20 ~ 24才		71	14	11	0	4	100 (44)
	25 ~ 29才		76	11	9	2	2	100 (55)
	30 ~ 34才		82	10	3	1	4	100 (78)
	35 ~ 39才		76	10	10	0	4	100 (50)
	40 ~ 49才		79	5	9	1	6	100 (66)
	50 ~ 59才		80	13	2	0	5	100 (59)
	60才以上		86	4	6	0	4	100 (50)

第24表 <#5.15> 若いものに親や先輩の意見は必要か？

問 「リスト」 つぎのような、2つの意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか？

(イ) 「最近の世の中のかわり方は激しいから、これに應じるために、親や先輩の指導をうけることや、意見を聞くことは、若いものにとって、必要なことだ」

(ロ) 「最近の世の中のかわり方は激しいから、親や先輩の指導や意見は、若いものにとって、あまり必要ではない」

		問	(イ)必要	(ロ)あまり必要でない	その他	D. K.	計
岐阜	1963	9	86	10	3	1	100 (402)
年令別	20～24才		89	11	0	0	100 (44)
	25～29才		85	9	4	2	100 (55)
	30～34才		88	9	3	0	100 (78)
	35～39才		90	6	4	0	100 (50)
	40～49才		83	9	5	3	100 (66)
	50～59才		86	9	3	2	100 (59)
	60才以上		76	14	4	6	100 (50)

## §6 男 女 差 別

第25表 <#6.1> 男女共学

- 問 a) 現在は大部分の学校が、男女共学を行っていますか、  
あなたは中学校の男女共学に賛成ですか？
- b) それでは、高等学校の男女共学はどうですか？

		中 学 校 (a)					高 等 学 校 (b)				
		問	賛成	反対	その他	D.K. 計	賛成	反対	その他	D.K. 計	
全国Ⅱ		102	66	19	3	12 100 (1449)	-	-	-	-	
全国Ⅱ(市部)		"	65	23	3	9 100 (423)	-	-	-	-	
岐阜1959		202	69	16	5	10 100 (415)	48	36	4	12 100 (415)	
岐阜1963		3	74	18	3	5 100 (402)	52	32	6	10 100 (402)	
年  令   別	20～24才		93	0	2	5 100 (44)	70	18	5	7 100 (44)	
	25～29才		93	3	2	2 100 (55)	64	13	5	18 100 (55)	
	30～34才		77	11	4	8 100 (78)	59	27	5	9 100 (78)	
	35～39才		66	26	4	4 100 (50)	38	46	6	10 100 (50)	
	40～49才		74	18	5	3 100 (66)	54	36	5	5 100 (66)	
	50～59才		66	27	2	5 100 (59)	46	39	5	10 100 (59)	
60才以上			50	40	2	8 100 (50)	30	50	10	10 100 (50)	



第26表 <#6.5> 男女の能力差

問 生まれつき、物事を考えたり、まとめたりする能力は、男と女で差があると思いますか？

		問	差がある	差はない	その他	D.K.	計
全国Ⅱ		120	63	29	2	6	100 (1449)
全国Ⅱ(市部)		"	67	28	1	4	100 (423)
岐阜 1963		4	62	27	4	7	100 (402)
年 令 別	20 ~ 24才		50	43	0	7	100 (44)
	25 ~ 29才		67	29	2	2	100 (55)
	30 ~ 34才		66	23	4	7	100 (78)
	35 ~ 39才		60	30	4	6	100 (50)
	40 ~ 49才		68	20	4	8	100 (66)
	50 ~ 59才		56	29	3	12	100 (59)
	60才以上		64	20	8	8	100 (50)

## § 7 一般の社会問題

第27表 <#7.3c> 国家・家中心と個人中心

問 日本人は以前は、国家や家を中心とする生活をして来ました  
が、この頃は、個人を中心とする生活をするようになった、  
といわれています。あなたはどちらがよいと思いますか？

1 国家・家中心の方がよい

2 個人中心の方がよい

#7.3 日本人は終戦前は、家族や国家を中心に-----  
-----、戦後は-----

#7.3b -----、家-----（後は#7.3に同じ）

		問	家族、国家 中心	個人中心	その他	D. K.	計
#7.3	全国Ⅱ	<sup>26</sup> / <sub>126</sub>	50	37	4	9	100 (2369)
	全国Ⅱ(市部)	11	46	42	4	8	100 (685)
	岐阜/959	323	51	36	5	8	100 (402)
#7.3 b	岐阜/959	233	38	46	6	10	100 (415)
#7.3 c	岐阜/963	18	39	51	5	5	100 (402)
年   令  別	20～24才		27	64	5	4	100 (44)
	25～29才		20	67	4	9	100 (55)
	30～34才		29	68	3	0	100 (78)
	35～39才		32	50	6	12	100 (50)
	40～49才		42	52	5	1	100 (66)
	50～59才		60	25	5	10	100 (59)
	60才以上		66	28	4	2	100 (50)

第28表 <#7.5> 公益と個人の権利

問 「リスト」 現在、日本ではつぎのどちらが多いと思いますか。〔ここではリスト（答の1,2）だけを読み上げると〕？

(イ) 公の利益のために、個人の権利が軽んぜられていることが多い

(ロ) 個人の権利のために、公の利益が無視されることが多い

		問	(イ)個人が 軽視	(ロ)公益が 無視	時と場合 による	その他	D.K.	計
#7.5	全国Ⅱ	119	38	29	8	25	100	(1449)
	全国Ⅱ(市部)	//	42	28	8	0	22	100 (423)
	岐阜1963	16	41	37	6	1	15	100 (402)
#7.5 b	岐阜1959	225 325	23	63	2	12	100	(817)
			イ)個人を 重視せよ	ロ)公益を重 視せよ	その他	D.K.	計	

注 #7.5b は質問が多少ちがう。

岐阜 1963		(イ)個人が 軽視	(ロ)公益が 無視	時と場合 による	その他	D.K.	計
年 令 別	20~24才	43	41	2	0	14	100 (44)
	25~29才	40	38	5	2	15	100 (55)
	30~34才	54	36	4	1	5	100 (78)
	35~39才	38	44	0	2	16	100 (50)
	40~49才	38	35	12	1	14	100 (66)
	50~59才	42	29	10	0	19	100 (59)
	60才以上	30	36	8	0	26	100 (50)

第29表 <# 7.13c> 法律の精神

問 「リスト」 法律について、次のような2つの意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか？

- (イ) 「法律はみんなが、おたがいに、ぐあいよく生活できるようにつくるべきである」  
 (ロ) 「法律は世の中に正義がおこなわれるように、つくるべきである」

		問	(イ)ぐあいよく生活できるように	(ロ)正義がおこなわれるように	その他	D.K.	計
岐阜 1963		17	62	29	3	6	100 (402)
年 令 別	20～24才		61	39	0	0	100 (44)
	25～29才		67	29	0	4	100 (55)
	30～34才		66	31	1	2	100 (78)
	35～39才		62	28	4	6	100 (50)
	40～49才		62	27	3	8	100 (66)
	50～59才		63	22	7	8	100 (59)
	60才以上		54	26	6	14	100 (50)

## § 8 政治的 態度

第30表 <#8.6> 選挙への関心

問 [リスト] あなたは衆議院の総選挙があるとき、ふつうは  
どうしますか？

- (イ) なにをおいても投票する
- (ロ) なるべく投票するようにつとめる
- (ハ) あまり投票する気にならない
- (ニ) ほとんど投票しない

		問	なにをおい ても投票	なるべく 投票	あまり投票する 気にならない	ほとんど 投票しない	その他 D.K.	計
全国Ⅱ		34 134	62	32	3	2	1	100 (2369)
全国Ⅱ(市部)		〃	63	33	3	1	0	100 ( 685)
岐阜 1959		232 332	57	37	4	1	1	100 ( 817)
岐阜 1963		22	52	41	4	3	0	100 (402)
年   令  別	20～24才		32	55	9	4	0	100 ( 44)
	25～29才		44	47	2	7	0	100 ( 55)
	30～34才		44	53	2	1	0	100 ( 78)
	35～39才		58	34	8	0	0	100 ( 50)
	40～49才		61	36	3	0	0	100 ( 66)
	50～59才		66	32	0	2	0	100 ( 59)
	60才以上		58	32	4	4	2	100 ( 50)

# 第31表 <#8.7> 支 持 政 党

問 あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

	問	自民	民社	社会	共産	支持党なし	他	D.K.	計
全国Ⅱ	<sup>35</sup> / <sub>135</sub>	38	-	31	0	20	1	10	100 (2369)
全国Ⅱ(市部)	"	35	-	36	0	20	1	8	100 (685)
岐阜 1959	<sup>233</sup> / <sub>333</sub>	39	1*	26	0	22	4	8	100 (817)
岐阜 1963	25	40	2	34	1	16	3	4	100 (402)

\* 社会党面尾激

岐阜1963の

年    令  別	20～24才	27	0	50	0	21	0	2	100 (44)
	25～29才	23	2	47	2	18	4	4	100 (55)
	30～34才	31	5	33	3	20	4	4	100 (78)
	35～39才	32	0	42	0	12	4	10	100 (50)
	40～49才	46	3	29	0	14	4	4	100 (66)
	50～59才	60	0	20	0	10	5	5	100 (59)
	60以上	60	0	20	0	16	0	4	100 (50)

## §9 日本人・人種

第32表 <#9.1b> 日本人の長所・短所

問 日本人の長所は为什么呢？

(このほかにありませんか)

それでは、短所は为什么呢？

(このほかにありませんか)

岐阜1963      サンプル数 402      (いくつでもあげさせたので  
計は402にならない)

長 所	あげた人数	短 所	あげた人数
勤 勉	51	短 気	49
辛抱がよい(意志が強い)*	34(2)	利己主義	32
器 用	22	模 倣	21
模 倣	22	熱しやすく、さめやすい	20
親 切	19	飽きっぽく	15
義理人情に厚	19	道徳心に欠ける	14
努 力	12	消極的	14
真面目・誠実	11	自主性がない	10
礼儀正しい	11	他人に干渉しすぎる	9
頭がよい	7	島国根性	8
家族制度をもつ	6	こせこせしている	7
その他	53	虚栄心	6
なし、D.K.	188	その他	75
		なし、D.K.	163

注 1 6人以上からあげられた項目をしめす

注 2 □印は全国Ⅱおよび岐阜1959年のリストにあげた項目に該当するものである

注 3 長所の 其他のうち 清潔潔白 2, 淡泊 1 がある また短所の 其他のうち 勘定高い 1 がある

<参 考>

第33表 <#9.1> 日本人の性値

問 「リスト」 つぎのうち、日本人の性値をあらわしていると思うコトバがあったら、いくつでもあげてください？

〔注意〕 リストはちがう

	1 勤勉	2 淡泊	3 ねばり強い	4 独創性に富む	5 礼儀正しい	6 熱いやすくさめやすい
全国(Ⅱ, 28)	55	19	48	8	47	-
全国市(4)	53	23	50	8	46	-
岐阜市(228)	56	12	45	9	37	60
岐阜市(328)	47	18 <sup>†</sup>	51 <sup>††</sup>	7	35	56
岐阜県民性*	40	6	27	7	17	28

	7 楽天的	8 規律正しい	9 清潔潔白	10 島國的	11 勤勉 <sup>**</sup> 徹底高い	12 繊細	ひとつもあけない人	計*
全国(Ⅱ, 28)	6~12のかわりに 合理的, 自由を尊ぶ, 親切						12	(2369)
全国市(4)	明朗, 理想を求める						8	(685)
岐阜市(228)	13	20	15	45	36	18	11	(415)
岐阜市(328)	8	16 <sup>†††</sup>	14	39	40	13	10	(402)
岐阜県民性	9	13	6	23	35	9	-	(577)

\* 100%のサンプル数

\*\* (打算的) <sup>†</sup> さっぱりしている(淡泊) <sup>††</sup> 根気強い  
<sup>†††</sup> 規則正しい

※ 岐阜県民性の調査では傾向文が「岐阜県民の性値をあらわしていると思うコトバ……」となっている。上記以外に 豪胆 2% がある。



第34表 <#9.4> 立派な人物

問 a) 「人名カード、色カード」

ここに27人の日本人の名前をかけたカードがあります。

「ここでカードをしめし、色カードをならべる」

このカードを、あなたのお考えにしたがって、この-----色のカードの該当するところに、あてはめてみてください?

「色カード」 1. 非常にりっぱな人物だと思う

2. まありっぱな人物だと思う

3. それ程りっぱな人物とは思えない

4. りっぱな人物とはとても思えない

0. この人物のことはよく知らない

人 名	岐阜1959	岐阜1963					人 名	岐阜1959	岐阜1963				
	あげた	1	2	3	4	0		あげた	1	2	3	4	0
聖徳太子	57	77	11	1	0	11	伊能忠敬	23	15	15	5	1	64
藤原鎌足	-	23	27	13	4	33	二宮尊徳	60	73	17	4	1	5
弘法大師	-	59	17	5	3	16	勝海舟	-	27	20	5	2	46
菅原道真	-	39	26	7	3	25	西郷隆盛	39	57	30	6	1	6
源頼朝	19	18	27	23	8	24	吉田松陰	38	43	22	5	1	29
楠木正成	38	52	28	7	1	12	福沢諭吉	45	54	16	2	2	26
足利尊氏	-	9	15	25	15	36	伊藤博文	35	55	29	5	1	10
織田信長	-	38	37	15	3	7	東郷平八郎	30	44	27	10	2	17
豊臣秀吉	35	49	33	10	1	7	乃木希典	40	58	21	6	1	14
徳川家康	33	37	38	16	2	7	明治天皇	55	73	15	4	2	6
中江藤樹	31	26	18	3	1	52	原 敬	-	15	17	10	3	55
新井白石	28	27	22	3	2	46	野口英世	55	77	11	1	1	10
平賀源内	-	11	12	8	1	68	湯川秀樹	49	69	16	2	1	12
杉田玄白	-	12	13	7	2	66	100% =	817	337				

全部D.K.のものは10%, 全部1または2, 3% 大部分が1カテゴリーに入り5人以下バラバラ5%である。またカードを分類するとき大多数はカードを一枚ずつ見てわけた所要時間は5分以内が7割で10分以上かったものは3%にすぎなかった。

◎ 岐阜/757ではリストを示し、立派だと思う人をあげさせたが今回は人名カードにより分類させた。

第34表 立派な人物一つずき一

b) このほかに、非常にりっぱだと思ふ人があつたらあげてください(何人でもかまいません)?

〔正史上の人、時の人にかぎる。外国人でもよい〕

あげられた人物は 日本人40人(延64人) 外国人25人(延45人)である。おもなものは

シェバイツァー(9人) リンカーン(6人) 日蓮上人(5人)である

前頁よりつづく

なお、岐阜/959のリストにあげられた18人の順位と今回のカードで(1)非常に立派な人物にあげられた順位とはかなりよく一致している。

人 物	順 位		人 物	順 位		人 物	順 位	
	1959	1963		1959	1963		1959	1963
聖徳太子	2	1	新井白石	16	15	伊藤博文	11	8
源頼朝	18	17	伊能忠敬	17	18	東郷平八郎	15	12
楠木正成	9	10	二宮尊徳	1	4	乃木希典	7	6
豊臣秀吉	12	11	西郷隆盛	8	7	明治天皇	4	3
徳川家康	13	14	吉田松陰	10	13	野口英世	3	2
中江藤樹	14	16	福沢諭吉	6	9	湯川秀樹	5	5

スピヤマンの順位相関係数  $\rho$

$$\rho = 1 - \frac{6 \sum d^2}{n^3 - n} \div 0.93$$

第34表 — つずき —

<#9.4> 立派な人物 (年令別)

年令別 人 名	1) 非常に立派だと思ふ の比率								0) 知らない の比率							
	20	25	30	35	40	50	60		20	25	30	35	40	50	60	
	5	5	5	5	5	5	5	オ 以上	5	5	5	5	5	5	5	オ 以上
聖徳太子	62	72	82	80	78	73	87		19	17	4	7	9	18	8	
藤原鎌足	13	13	19	18	24	32	47		57	43	30	30	22	32	26	
弘法大師	43	62	56	52	62	66	74		32	13	13	22	9	18	16	
菅原道真	19	25	37	35	43	52	63		48	32	22	22	16	23	18	
源 頼朝	19	23	19	18	14	16	21		32	23	25	29	22	20	18	
楠木正成	19	32	52	58	57	66	76		48	17	7	2	7	9	5	
足利尊氏	5	9	10	8	4	11	16		57	40	36	32	29	39	21	
織田信長	46	40	48	32	33	30	34		11	7	4	5	7	11	13	
豊臣秀吉	32	42	58	45	48	43	66		8	13	4	7	5	9	5	
徳川家康	38	30	45	35	33	34	42		8	7	3	5	9	9	8	
中江藤樹	14	9	16	25	41	43	37		76	70	55	45	36	39	47	
新井白石	11	11	23	20	39	41	42		68	65	52	42	33	29	39	
平賀源内	8	11	8	10	10	13	13		68	65	74	57	64	75	68	
杉田玄白	19	17	5	10	9	23	11		46	58	73	63	71	66	76	
伊能忠敬	24	11	14	15	14	18	16		57	65	64	62	66	64	66	
二宮尊徳	57	71	79	68	66	84	82		22	-	3	-	5	9	-	
勝 海舟	16	21	27	25	31	36	31		62	60	43	47	35	30	50	
西郷隆盛	48	38	51	65	62	59	82		11	9	4	-	5	9	2	
吉田松陰	16	19	51	45	47	55	61		64	47	19	15	22	27	18	
福沢諭吉	75	70	56	43	50	48	34		8	15	25	27	25	34	50	
伊藤博文	51	53	55	47	52	62	66		14	9	13	2	7	11	10	
東郷平八郎	14	19	36	43	61	64	74		50	38	11	10	4	9	5	
乃木希典	27	47	48	55	76	71	84		46	26	12	7	3	5	-	
明治天皇	51	45	71	83	84	82	97		16	10	2	2	2	9	3	
原 敬	14	9	3	8	22	20	34		70	72	68	60	51	34	21	
野口英世	89	96	89	73	76	57	45		-	2	3	2	7	25	47	
湯川秀樹	76	85	73	58	69	57	58		3	-	12	10	8	30	21	
(サンプル数)	37	47	73	40	58	44	38		37	47	73	40	58	44	38	



印 刷

株式会社 文 社

東京都新宿区戸塚町1—481

電話 東京 (341) 9270・9925

Research REPORT

General Series No. 8

**A 1963 SURVEY  
IN  
GIHU CITY**

**—A Study of Japanese  
National Character—**

Reserach Committee  
of Japanese National Character

**TÔKEI-SÛRI KENKYÛZYO**

Institute of Statistical Mathematics  
Azabu-Huzimi-tyô, Tôkyô, Japan